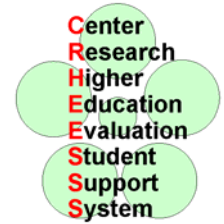


週刊センターニュース No.88



第88号(2005年12月5日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

第2回専門分野別教育開発セミナーのご案内

主催: 金沢大学大学教育開発・支援センター

テーマ: 「文系基礎とコア・カリキュラム」

日時: 平成17年12月11日(日) 13:30~17:30

会場: 金沢市西町教育研修館内金沢大学サテライト・プラザ3階集会室

参加申込: メールにて西山 (nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp) まで12月8日(木)までにお知らせください。

詳細情報: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

プログラム:

- 13:30~13:40 開会の辞 鹿野勝彦(金沢大学教育担当理事・副学長)
- 13:40~14:40 基調講演 川嶋太津夫(神戸大学大学教育研究センター教授)
「学士課程カリキュラムの在り方: 専攻を超えて」
- 14:40~14:50 休憩
- 14:50~15:35 第1報告: 鏡味治也(金沢大学文学部教授)
「専門共通科目と文学部教育」
- 15:35~16:20 第2報告: 東川浩二(金沢大学法学部助教授)
「導入教育としての法学概論」
- 16:20~16:30 休憩
- 16:30~17:25 ディスカッション
- 17:25~17:30 閉会の辞 青野 透(金沢大学大学教育開発・支援センター長)

NIME 国際シンポジウム「高等教育における e ラーニングの質保証」参加報告

去る11月9日(水)、10日(木)に千葉幕張のメディア教育開発センターで開催された国際シンポジウムに参加した。このシンポジウムは、タイトルにもあるように、高等教育における国際化の進展に伴う e ラーニングの質保証について議論するものであった。情報通信技術を活用する e ラーニングにとって国境を越えることは非常に簡単であるが、その一方で、国際展開における教育内容や方法の国際的通用性を保持するために、e ラーニングによる高等教育の質保証の確保が重要な課題となってきた。それらを踏まえて本シンポジウムでは基調講演に続いて、二日間にわたり3つのテーマについて議論が行われた。

セッション1「国際的な e ラーニングの質保証」では、ダイナミックに変動する国際社会においては、教育も国境を越えることが可能になり、各国がその送り出し、受け入れ態勢を整備しつつあるが、その場合、質の保証、質の保証のための情報公開、e-Learning を実践している高等教育機関による学習効果の明示、先進国が送り出し側、途上国が受入側という構図においてもあくまでも受入側が主導権を持つこと、各国の教育システム連携を円滑に進めるためのガイドライン策定が必要、個人情報保護が重要といったトピックについての報告、議論が行われた。

セッション2「e ラーニングの質保証におけるインストラクショナルデザインの役割」では、インストラクショナルデザインについて、その概念、その質保証の観点、多様なモデル、実施にあたってのチェックシート、学生、教師、教材間の関係、インストラクショナルデザインの日本での実践

例などについて報告がなされ、e-Learning にとってインストラクショナルデザインが非常に有効な考え方であり、現在、日本にはほとんど存在しないインストラクショナルデザイナーを、今後、養成していくことが必要であるとのコメントがなされた。

セッション3「機関レベルの高等教育 e ラーニング運営とガイドライン」では、アメリカ地区基準協会による e-Learning の評価、無償で公開されている各種 Open Course Ware および Open Content についても質保証は必要、シドニー工科大学での e-Learning 評価の実例紹介および分析、中国における e-Learning 評価ネットワークの紹介などが報告され、e-Learning の国際的質保証のためのガイドラインが必要との議論がなされた。

これらの報告、議論を聞いて、「e-Learning の普及、促進には、質の保証が不可欠であり、その場合には、教育サービスを受ける側の視点が重要である」という感をより一層強くした。また、e-Learning の質保証については、現在、一部で進められている機関レベル、国家レベル、国家間連携レベルなど、多様なレベルにおける質保証に関するガイドライン策定は必須である。その流れにおいて、まずは、機関レベルでのガイドラインを定めておかないと、上のレベルからのポリシーを押しつけられかねない事態に陥り、機関独自の教育理念が十分反映されないおそれもある。そのため、金沢大学としても、全学として e-Learning に関するポリシーを早急に策定する必要があるのではないだろうか。

最後に、セッション2で e-Learning における有効性が指摘されたインストラクショナルデザインインストラクショナルデザインを扱った書籍を3点紹介させていただく。このインストラクショナルデザインは、決して e-Learning だけのものではなく、教育全体、授業全体を考える上でも有効なものと考えられ、FDの一つとしても捉えられるものである。

・『実践インストラクショナルデザイン 事例で学ぶ教育設計 情報デザインシリーズ』

内田 実 (著)、清水 康敬 (監修) 東京電機大学出版局、2005 年

・『はじめてのインストラクショナルデザイン』、ウォルター ディック、ジェームス・O. ケアリー、ルー ケアリー (著)、角 行之 (監訳)、ピアソン・エデュケーション、2004 年

・『インストラクショナルデザイン入門 マルチメディアにおける教育設計 情報デザインシリーズ』、ウィリアム・W. リー、ダイアナ・L. オーエンズ (著)、清水 康敬 (監訳)、日本イーラーニングコンソシアム (訳)、東京電機大学出版局、2003 年

なお、この国際シンポジウムについては、メディア教育開発センターの Web ページ (<http://p4web.nime.ac.jp/p4web3/public.asp>) からオンデマンドコンテンツとして視聴することが可能である。(教育支援システム研究部門 堀井)

センター教員活動記録

2005.11.9-10 国際シンポジウム「高等教育における e ラーニングの質保証」参加 (主催・会場：メディア教育開発センター) 参加 (堀井 公費出張)

2005.11.12 第6回 ESP 研究会 (宮崎大学、主催：JACET 九州沖縄支部 ESP 研究会・科学研究費補助金による横山研究グループ) 参加 (堀井 公費出張)

2005.11.21 「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」(科研) 打合せ参加 大阪大学 (堀井 科研費出張)

2005.11.29 東北大学特色 GP シンポジウム「大学基盤教育における理科実験の新展開 文科系開講に向けて」に参加・会場；東北大学 (西山 公費出張)

センターからのお願い

センターニュースで取り上げてほしいテーマを募集します。また、センターニュースを読んでのご感想や当センターへの要望などをメールにてお寄せください。

センターでは、共同学習会の話題提供、ランチョンセミナー担当を随時募集しておりますのでご連絡ください。

info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jpまでお願いいたします。